

## 遠山氏連圈狀靴糠疹ニ就テ

岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室（主任皆見教授）

助手 大道 直 一

### 緒 言

本疾患ハ本邦人ニ於テノミ見ラルル一種固有ノ皮膚疾患ニシテ、未ダ外國ニ於テ報告アルヲ聞カズ。

本症ハ明治39年遠山、松浦兩氏ニ據リテ始メテ報告サレ、爾來幾多ノ報告者相次ゲリ。即チ小森田、渡邊、中野、小原、土肥、杉下、玉懸、小野塚、岸本、中村、大野、大桑、櫻根、加藤、安藤、長谷川、高橋ノ諸氏ノ報告アリテ、75例餘ヲ數フ。

余モ最近大正14年ト昭和2年トニ各1例ヲ經驗セシカバ、茲ニ報告セントス。内1例ハ已ニ皆見教授ニ據リテ大正14年9月、日新醫學研修會ニ於テ講演サレシ所ナルモ、重ネテ茲ニ述ベントス。

### 症 例

**第1例** 森尾某男、32歳、無職、岡山縣人、初診大正14年11月2日。

主訴 腰部ニ於ケル搔痒性發疹。

既往症 6年前ヨリ四肢ニ麻痺感生ジ、尙ホ10日以來腰部ニ輕度ノ搔痒性發疹ヲ生ズ。金子内科ヨリ紹介ノ患者ニテ、内科ノ診斷ハ進行性筋肉萎縮症ナリ。

現症 之ヲ見ルニ腰部ノ脊椎ノ兩側ニ當ツテ、多クノ圓形、灰白色ノ斑アリ。大サハ2錢銅貨大ヨリ小判大位ニシテ、中ニハ互ニ融合セルモノモ認ム。邊緣トノ境界ハ割合明劃ニシテ、表面ハ粗糙、之ヲ搔破スレバ靴糠様ノ落屑ヲ認ム。鱗屑ヲ苛性加里液ニテ處理シ鏡檢シ或ハ培養上病原菌ト認ムベキモノ發見サレズ。

經過並ニ治療 隔日ニ1回宛計6回、人工太陽燈ヲ照射シ、尙ホ「テールバスタ」ヲ毎日塗擦セルニ、9月20日ニハ發疹ハ經過良ク、更ニ3回照射セルニ靴糠疹ハ甚シク輕快セリ。



第2例側腹部ノ發疹

第2例 須藤某男, 55歳, 農, 岡山縣人, 初診昭和2年12月20日.

既往症 約2週間前ヨリ夜間ニ胃部疼痛アリテ内科ヲ訪問セシモノニシテ, 腹部及ビ胸部ニ於ケル發疹ニ就テハ毫モ氣附カザルモノノ如ク, 柿沼内科ヨリ當科ニ紹介サレテ始メテ發見セシモノナリ. 内科診斷十二指腸蟲病.

現症 發疹ヲ見ルニ右側腹部ニ2錢銅貨大ヨリ手掌大ノ周縁トノ境界著明ナル圓形ノ斑アリテ, 之ヲ掻破スレバ, 軽度ノ靴襠様落屑ヲ認メ, 右腰部ニモ2箇ノ手掌大, 左側腹ニモ3箇ノ2錢銅貨大, 左背部ニモ1箇ノ同様ナル發疹ヲ認ム. 知覺異常, 神經肥厚等ナシ. 細菌の検査陰性ナリ.

治療 7%「サリチル」酸酒精塗布ニ兼ヌルニ, 人工太陽燈照射.

## 概 括

明治39年ヨリ昭和2年末迄ニ報告サレシ75例ニ, 余ノ2例ヲ加ヘ, 77例ニ就テ概括的ニ述ベン.

### 1. 年齢.

土肥, 玉懸兩氏ハ中年者ニ, 遠山氏ハ30歳前後ニ, 岸本氏ハ20—50歳ニ多シトス. 斯ク一般ニ中年者ニ多シト認メラルルモ, 松浦氏ノ例ハ15歳ニ, 小森田氏ハ64歳, 玉懸氏ハ66歳ニ於テ之ヲ認メシ報告アレバ, 少數乍ラ幼年者並ニ老年者ニ於テモ來リ得ル疾患ナリ. 余ノ2例中1例ハ32歳, 他ノ1例ハ55歳ナリ. 77例ニ就テ觀ルニ, 不明例21例ヲ除キテ56例中51歳以上10例, 20歳以下3例, 21—30歳15例, 31—50歳28例ナリ. 即チ31—50歳ニ最モ多クシテ, 21—30歳之ニ次ギ, 20歳以下ニ最モ少キコトヲ認ム. 即チ本疾患ハ中年者ニ多クシテ, 幼年者, 老年者殊ニ幼年者ニ於テ少キ疾患ナリ.

### 2. 性.

性ニ關シテ, 土肥, 遠山兩氏ハ女子ニ多シトシ, 玉懸氏ハ性トハ關係ナシト云ヒ, 岸本氏ハ男子ニ多ク, 女子ニ2倍スト云ヒ, 松浦氏モ10例中6例ハ男子ナリト云ヒ, 斯ク男女孰レニ多キカニ就テハ未ダ歸一スル處ナキガ如キモ, 比較的女性ニ多シト云ハル. 余ノ2例ハ共ニ男子ニシテ, 之ヲ77例ニ就テ觀ルニ, 不明1例ヲ除キテ76例中男子42例, 女子34例ニシテ, 殆ド性トハ關係ナキガ如キモ, 強イテ云ヘバ, 男子ニ稍々多キガ如ク, 少クトモ女子ニ多シトハ認メ得ズ.

### 3. 職業別.

甚ダ區々ニシテ, 特ニ一定ノ職業ニ多シトハ認メラレズ. 即チ職業的ニハ全然關係ヲ認メ得ラレズ.

### 4. 遺傳的關係.

遠山氏ノ1例ニ父66歳ニシテ同様ノ發疹ヲ左腰部, 下腹部ニ認メシトノ報告以外ニ未ダ之ヲ見ズ. 余ノ例ニテモ遺傳的關係ナシ. 恐ラク遺傳的關係ヲ度外視シテ可ナランカ.

## 5. 部位.

土肥、遠山、松浦、玉懸、岸本諸氏ハ大體軀幹ニ多シト云フ。余ノ2例モ1例ハ腰部、他ノ1例ハ胸部及ビ腹部ニ認メシモノニシテ、之ヲ77例ニ就テ觀ルモ、腹部及ビ腰部ニ最モ多ク、胸部、背部コレニ次ギ、上膊、大腿ニ於テハ少ク、頸部、腋窩等ハ極メテ稀ニシテ、未ダ顔面、手足ニ生ゼシ報告例ヲ見ズ。即チ部位ニテハ露出部ニ少ク、被覆部殊ニ軀幹ニ多キコトヲ認ムルト共ニ、同ジ被覆部ニテモ、股間、腋窩等ニハ少シ。

## 6. 自覺症狀.

大多數ノモノニ於テ認メラザルモ、遠山氏ノ3例ニ於テ發疹時輕度ノ癢痒感アリ。余ノ1例ニテモ、腰部ノ發疹ニ癢痒感アリ。即チ自覺症狀ハ一般ニ缺如スルモ、時ニハ癢痒感ノ來リ得ルコトヲ示ス。

## 7. 形態、性狀.

發疹ハ名稱ノ示ス如ク、多クハ正圓形ナルモ、時ニハ橢圓形ヲ呈スルモノニシテ、且發疹ハ多クハ孤立性ナルモ、時ニハ融合シテ兒頭大ニ及ブモノアリ。大サモ、多種多様ニシテ一定セズ。小サキハ遠山氏ノ0.4 cmヨリ、大ナルハ松浦氏ノ兒頭大ニ及ブモノアリ。數モ多様ニシテ2乃至數十箇ニ及ブ。色モ多クハ灰白色乃至淡褐色ナルモ、岸本氏ハ殆ド色調ヲ認メ難キモノモアリト述べ、大野氏ハ黒褐色、玉懸氏ハ輕度ノ黒褐色ヲ帶ビ且ニ不潔ノ色澤ヲ有スルコトアリト報告ス。余ノ2例ハ形ハ2例共ニ正圓形ナルモ、1例ハ融合シテ手掌大ニ及ブ。色ハ灰白色ナリキ。數ハ2例共ニ數箇アリテ、周圍トノ境界頗ル明瞭ナリ。鱗屑ハ比較的僅少ニシテ搔破シテ漸ク粗糠樣ノモノヲ認ムルガ如シ。尙ホ皮疹ノ表面ハ不平等ニシテ縮緬皺ヲ示スモノ多シ。

## 8. 併發症及ビ營養狀態.

諸家ノ說一定セザルモ、松浦氏ハ内臟重症患者殊ニ消耗性疾患トノ關係ヲ說キ、玉懸氏モ、松浦氏ノ如ク、何等カノ素因ナキヤト云ヒ、岸本氏モ結核性腹膜炎、心臟瓣膜病、肝硬變等ノ慢性疾患ヲ有シ、營養不良ノ者ニ多シト云ヒ、土肥氏ハ屢々肺癆患者ニ併發スルコトヲ記載シ、櫻根氏ハ概ネ惡液質ノ患者ニ認メ得ラレ、殊ニ其營養狀態ハ注目ニ價スト云フモ、遠山氏ハ全然何等ノ素因ヲ認メズトス。余ノ集メ得シ77例ニ就テ觀ルモ、營養不良、皮膚蒼白ナル者大多數ニシテ、營養狀態ト本疾患トノ間ニ關係ナキヤヲ思ハシム。殊ニ急性疾患ニ屬スルモノヨリモ、慢性疾患ニ屬スル者多キ傾キアリ。余ノ2例モ1例ハ進行性筋肉萎縮症、1例ハ十二指腸蟲病ニシテ、共ニ慢性疾患ニ屬スベキモノナリ。營養狀態ハ2例共ニ稍々不良ナリキ。

尙ホ本症ニ就テ、岸本氏ハ球菌ヲ、玉懸氏ハ一種ノ長桿菌ノ兩端鈍圓ナルモノヲ記載シ、人體皮膚接種ニ成功セリ。又、長谷川氏モ桿狀體ヲ認メ、土肥氏ハ短少桿狀菌ヲ認メタルモ、果シテ病原體ナリヤ否ヤハ今斷言ノ限リニ非ズト云ハル。兎ニ角未ダ一般ニハ、之等ヲ以テ確實ナル病原體トハ認メラズ。櫻根氏モ本症ヲ以テ寧ロ營養神經障害ニ因リテ起ルモノナラント說ケリ。余ノ2例ニ於テモ、培養並ニ鱗屑中ニ病原體ヲ見ル能ハザリキ。

以上ヲ要スルニ、余ノ2例ニ於テハ年齢ハ1例ハ中年者ナルモ、他ノ1例ハ高年者ニシテ、即チ高年者ニ於テモ來リ得ルコトヲ示シ、且2例共ニ男性ニシテ、女性ニ多シトノ説ニ稍々反セルモノナリ。尙ホ細菌の検査ハ陰性ニシテ、共ニ慢性疾患ヲ有シ、營養稍々不良ナリ。其他部位、數、形態等ニ於テハ他ノ例ト同ジキモ、1例ニ於テ癢痒感ヲ發疹ニ伴ヘルモノアルハ興味アル點ナラン。

#### 9. 經過竝ニ治療.

經過ハ慢性ニシテ十數年ニ亙ルモノアルハ、諸家ノヨク認ムル所ナルモ、稀ニハ遠山氏ノ例ニ見ル如ク、十數日間ニシテ急速ニ増悪蔓延シ、發疹ノ3倍ニ及ブコトアリ。之ニ反シ岸本氏ハ40有餘日ニ皮疹ノ色漸次消褪セル報告アリ。而シテ本症ハ自然治癒ハ一般ニ殆ド認メラザルモ、岸本氏ハ1例ニ於テ之ヲ認ム。

治療モ多クハ「サリチル」酸精、或ハ爹硫膏等ヲ塗布シテ大體有效ナルガ如シ。余ハ1例ニ於テ、人工太陽燈ノ照射ニ兼ネルニ爹硫膏ノ塗擦ニテ、治效良好ナルヲ見タリ。

### 結 論

1. 年齢ハ中年者ニ多キモ、高年者ニモ認メ得。
2. 性ニ關シテハ、サシタル關係ナキモ、稍々男性ニ多キ傾向ヲ有ス。
3. 職業別、遺傳的關係ハ全然之ヲ認メズ。
4. 部位ハ被覆部殊ニ軀幹ニ多クシテ、露出部ニ於テ少シ。
5. 自覺症狀ハ殆ド之ヲ認メザレド、時ニ癢痒感アルモノノ如シ。
6. 本症ハ内臓ノ慢性疾患ニ併發スルコト多シ。余ノ例ハ進行性筋肉萎縮症ト十二指腸蟲病ニ併發セル者ナリ。

擱筆スルニ當リ終始惡罵ナル御指導ヲ賜ヒシ恩師皆見教授ニ深謝ス。(3. 2. 22. 受稿)

### 文 獻

- 1) 安藤, 皮膚科泌尿器科雜誌. 27卷, 4號.
- 2) 土肥(慶), 皮膚科泌尿器科雜誌. 15卷, 2號.
- 3) 土肥(慶), 皮膚科學. 12版下.
- 4) 長谷川, 皮膚科泌尿器科雜誌. 27卷, 2號.
- 5) 加藤, 皮膚科泌尿器科雜誌. 27卷, 7號.
- 6) 松浦, 皮膚科泌尿器科雜誌. 6卷, 3號.
- 7) 皆見, 臨牀醫學. 第14年, 第12號.
- 8) 中野, 皮膚科泌尿器科雜誌. 11卷, 11號.
- 9) 中村, 皮膚科泌尿器科雜誌. 22卷, 4號.
- 10) 小森田, 皮膚科泌尿器科雜誌. 7卷, 1號.
- 11) 小原, 皮膚科泌尿器科雜誌. 12卷, 13號.
- 12) 小野塚, 皮膚科泌尿器科雜誌. 17卷, 5號.
- 13) 大野, 皮膚科泌尿器科雜誌. 22卷, 7號.
- 14) 大桑, 皮膚科泌尿器科雜誌. 24卷, 9號.
- 15) 杉下, 皮膚科泌尿器科雜誌. 17卷, 5號.
- 16) 遠山, 皮膚科泌尿器科雜誌. 6卷, 2號.
- 17) 玉懸, 皮膚科泌尿器科雜誌. 17卷, 5號.
- 18) 玉懸, 皮膚科泌尿器科雜誌. 18卷, 11號.
- 19) 高橋, 皮膚科泌尿器科雜誌. 27卷, 9號.
- 20) 渡邊, 皮膚科泌尿器科雜誌. 11卷, 10號.

*Kurze Inhaltsangabe.***Über Pityriasis circinata Toyama.**

Von

Naoichi Ohmichi.

*Aus der Dermato-Urologischen Universitätsklinik in Okayama.**(Vorstand: Prof. Dr. Seigo Minami.)*

Eingegangen am 22. Februar 1928.

Diese Krankheit wird nur in Japan angegeben. Sie besteht aus rundlichen, grauen, scharf begrenzten Flecken, welche nicht erhaben sind und ab u. zu viele kleine Runzeln mit geringen kleienförmigen Schuppen zeigen. Die Grösse der Effloreszenz schwankt von Münzen-bis Handtellergrösse, z. T. konfluierend. Subjektiv meistens beschwerdenfrei, zeigt nur manchmal Juckreiz. Die Flecke liegen mit Vorliebe am Bauch und an den Lenden, besonders bei dem Pat., der gleichzeitig an chronischer interner Krankheit leidet. Ich habe 2 Fälle beobachtet, einer von diesen leidet an progressiver Muskelatrophie, der andere an Ankylostomiasis.

In Japan wurden bisher 77 Fälle mitgeteilt. Die Erkrankung befällt die Kranken meistens zwischen 3. und 5. Dezennium, und zwar mehr die Männer.

Der Erreger ist schwer nachweisbar, obgleich einige Autoren bereits *Torula* oder Stäbchen entdeckt haben.

